

コマンドを覚えずに使える

初心者にとってコンピュータがとっつきにくい理由の一つに、コンピュータを操作するためのさまざまな「約束事」をマスタしなくてはならない点がある。例えばアイコンをダブル・クリックするとアプリケーションが起動するというのも一つの約束事だ。音声による操作も実用化されているが、そのためのコマンドを覚える必要がある。

コマンドを覚えなくても直感的に使えるという面では、ペンによる入力インターフェースは有効な手段といえる。ディスプレイに表示した図形や文字に対して、直接操作の指示を書き込むことも可能だからだ。例えば、図形のある角に数字を書き込むと、その角の大きさが変わるというのは受け入れやすいだろう（写真11）。三角形を選択する方法、角度を変える操作コマンドなどをマスタしなくてもいい。

画像を読み取ってIDを割り出す。そして、IDに関連付けられている動作（プログラムの起動やインターネットへのアクセスなど）を実行する。URLを打ち込まなくても雑誌や新聞に掲載したバーコードをCCDカメラにかざすだけで、情報を掲載したWebサイトにアクセスするといった活用もできる。

この2次元コードは約1677万通りの動作を設定できる。このうち約1577万通りはすでにソニーが予約しており、残りをユーザが自由に設定して利用できる。

もう一つの例として、機能を示すタイルのような板を並べていくことで、情報を閲覧したり操作しようという試みもある（写真13）。「DataTile」

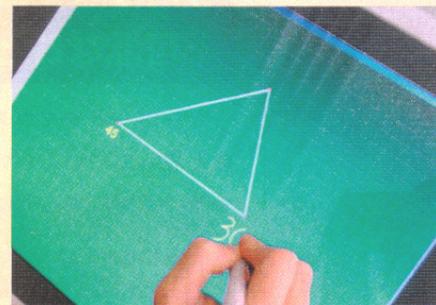


写真11 ペンで図形に指示を与えているところ。30と入力することで三角形の1角の角度が30度になる。操作コマンドを覚えなくても利用できる。東京農工大学工学部の加藤直樹博士の研究